

第416回

日本泌尿器科学会新潟地方会

《プログラム・抄録》

日時：令和8年3月14日（土） 13時45分
会場：ホテルオークラ新潟 4階『コンチネンタルルーム』
新潟市中央区川端町 6-53
TEL：025-224-6111

次回 第417回 新潟地方会

（甲信越合同地方会） 予告

日時：令和8年6月6日（土） 午後2時

会場：未定

演題申込期限：令和8年5月8日（金曜日）

※すべてPCのみの発表とさせていただきます
Macintoshの先生はコンピューターをご持参ください。

※一般口演時間は、7分、討論3分（時間厳守）

日本泌尿器科学会会員証を必ずご持参下さい

〒951-8510 新潟市中央区旭町通 1-757

新潟大学大学院腎泌尿器病態学分野(泌尿器科学教室)内

日本泌尿器科学会新潟地方会

TEL：025 (227) 2289/FAX：025 (227) 0784

会長 大澤 崇宏

13:45~14:00

開会の辞

日本泌尿器科学会新潟地方会会長

大澤 崇宏

14:00~14:50

座長 石崎 文雄

1. 用手整復で治癒し得た外傷性精巣転位症の一例

長岡赤十字病院 泌尿器科

今井俊介, 中村涼太, 風間明, 鈴木一也, 米山健志

症例は18歳男性。オートバイ運転中の交通事故で会陰部を強打した。受傷後より右下腹部に腫脹および疼痛を認め、当院紹介受診した。CTおよびMRIで右精巣は浅鼠径輪頭側の皮下に位置しており、外傷性精巣転位症と診断した。右精巣は用手的に陰嚢内へ還納可能であり、整復後も萎縮や腫大を認めず経過良好であった。外傷性精巣転位症は稀な病態であり、多くの症例で手術的整復が必要とされている。文献的考察を加えて報告する。

2. 急性細菌性前立腺炎と *Actinotignum schaalii* による菌血症を来した1例

村上総合病院 教育研修センター¹⁾、泌尿器科²⁾

橋本隼¹⁾、安藤嵩²⁾

95歳男性。前立腺肥大症と神経因性膀胱のために尿閉となり、7か月前から尿道カテーテル管理されていた。発熱と悪寒で当院救急外来を受診し、CTで前立腺の腫脹と周囲脂肪織濃度上昇を認めたため、急性前立腺炎の診断で当科に入院した。抗菌薬での経過経過は良好であったが、血液培養から嫌気性菌が検出され、質量分析法により *A. schaalii* と同定された。尿路由来と思われる稀な嫌気性菌の菌血症例を経験したため若干の文献的考察も含めて報告する。

3. 当院における放射線性膀胱炎に対する高気圧酸素療法に関する検討

新潟市民病院 泌尿器科

阿部壮一郎、村下竜一、山崎裕幸、結城恵里、笠原隆、今井智之

保存的加療でコントロール不良な放射線性膀胱炎に対しては、TUCの実施が一般的である。TUC後に止血を得られなかった場合、地固めの治療として高気圧酸素療法が選択肢に挙げられる。過去8年に当院では高気圧酸素療法を8例実施した。これらの症例の治療期間や治療効果などについて、若干の文献的考察を加えて報告する。

4. 育休アンケートによる育休意識調査と新潟における課題について

新潟大学医歯学総合病院 泌尿器科¹⁾、徳島大学大学院医歯薬学研究部 泌尿器科学分野²⁾

熊本済生会病院 泌尿器科³⁾

柳 佳輝¹⁾、塩崎啓登²⁾、濱崎 和代³⁾

先日行われた第77回西日本泌尿器科総会にて行われたアンケートを元に新潟県の医局内でも育休に関するアンケート調査を行った。新潟県の地域の特徴、医師数を含め、西日本の結果と比較、考察を行い、発表する。

5. 上部尿路に対する BCG 灌流療法の検討

新潟県厚生農業協同組合連合会 長岡中央総合病院 泌尿器科
中澤徹、丸山亮、渡邊和博、高橋英祐、照沼正博

BCG 上部尿路注入療法は様々な理由で手術が困難な症例に対して選択される。腎盂・尿管癌ガイドラインでは、腎温存目的に選択され 84% で尿細胞診の陰転化を認めるとされるが、前向き試験が無く、明確な方法や回数・容量などは未だ確立されていない。当院での過去 5 年間における DJ 留置による BCG 灌流療法（逆行性 BCG 上部尿路注入）を行った症例について、その後の経過をまとめ、治療効果について検討したので報告する。

14:50~15:40

座長 田崎 正行

6. 県立がんセンター新潟病院における 2025 年の診療実績

新潟県立がんセンター新潟病院 泌尿器科
保坂仁哉、晝間楓、中山亮、白野侑子、谷川俊貴

当院は現在、派遣常勤医 4 名とエルダー医 1 名の計 5 名で日々の診療業務を行っている。2025 年に他院から当科へ紹介された新患は 745 名、年間手術件数は 741 件（うち前立腺生検 230 件）、新規に導入した化学療法は 105 件であった。その内訳と傾向を報告するとともに、地域のがん拠点病院としての役割について再考する。

7. 前立腺癌患者における根治的前立腺摘除術後の局所再発または生化学的再発に対する放射線療法

新潟大学地域医療教育センター 魚沼基幹病院 泌尿器科¹⁾、放射線治療科²⁾、病理診断科³⁾、放射線診断科⁴⁾
西山紘貴¹⁾、川口弦²⁾、伊藤梢絵³⁾、長谷川剛³⁾、池田洋平⁴⁾、原昇¹⁾、西山勉¹⁾

前立腺癌に対する根治的前立腺摘除術後に前立腺床への放射線療法を施行した、遠隔転移を伴わない生化学的再発または局所再発患者の転帰を調査した。根治的前立腺摘除術後の局所再発 19 例のうち、ADT を施行しなかった 9 例中 3 例は局所放射線療法後に再発した。一方、放射線療法中に ADT を施行した 10 例は、治療後に再発を認めなかった。放射線療法のみを受けた患者と放射線療法中に ADT を受けた患者とでは、臨床的に無再発生存率に有意差は認められなかった ($p=0.302$)。局所再発のない 57 人の患者のうち 56 人について、PSA 倍加時間 (PSADT) について評価した。根治的前立腺摘除術後の再発時に PSADT が 6 か月以上であった患者は、PSADT が 6 か月未満の患者と比較して、局所放射線療法後の臨床的に無再発生存率が長い傾向にあった ($p=0.06$)。局所再発があり、放射線量を増加させて治療を受けた患者では、局所再発のない患者と比較して、放射線療法関連の消化器毒性の発現率に差は認められなかった。以上の結果から、根治的前立腺摘除術後の局所再発に対する放射線療法後の再発予防に ADT が有益である可能性がある。根治的前立腺摘除術後の生化学的再発患者に対する救済放射線療法を検討する場合、PSADT が有用である可能性がある。

8. 左腎 malignant/sarcomatous transformation of mixed epithelial and stromal tumor 症例の経験

新潟大学地域医療教育センター 魚沼基幹病院 泌尿器科¹⁾、病理診断科²⁾、放射線診断科³⁾
有波健太郎¹⁾、伊藤梢絵²⁾、瀧澤裕里恵³⁾、長谷川剛²⁾、池田洋平³⁾、原昇¹⁾、西山勉¹⁾

39 歳男性が肉眼的血尿を主訴に近医を受診し、左腎上極の嚢胞性腫瘤を指摘され、当科を紹介受診した。左腎上中部に径 13 cm の腫瘍を認め、充実性部分と血腫の混在を認め、腎盂との交通を認めた。左嚢胞性腎癌の診断で腹腔鏡下左腎摘除術を施行した。病理は malignant/sarcomatous transformation of mixed epithelial and stromal tumor の診断であった。CGP 検査では推奨及び情報提供できる情報はなかった。今後嚴重な経過観察を予定している。

9. 尿路上皮癌に対するエンホルツマブ ベドチン+ペムブロリズマブ療法の初期経験

新潟大学大学院 医歯学総合研究科 腎泌尿器病態学分野

佐波 達朗、坪谷 啓汰、石川 晶子、鳥羽 智貴、池田 正博、安楽 力、石崎 文雄、田崎 正行、山名 一寿、齋藤 和英、大澤 崇宏

根治切除不能な尿路上皮癌に対する一次治療として、2024年9月にエンホルツマブ ベドチン+ペムブロリズマブ (EV+P)療法が本邦でも適応追加に関する承認を得た。今回我々は、当院でEV+P療法を施行した初期18例について、後方視的に解析を行った。性別は女性6例、男性12例、治療開始時年齢の中央値は66歳(60-77)、平均投与サイクル数は5.8 (SD 4.2)だった。初回の治療効果判定が未施行の4例を除き、CR1例、PR9例、PD4例だった。副作用は16例で出現し、皮疹が最も多かった。有効性や副作用について、文献的考察を交えて報告する。

10. 進行性腎細胞がんに対するHIF2アルファ阻害剤ベルズティファンの使用経験

新潟大学大学院 医歯学総合研究科 腎泌尿器病態学分野

山名一寿、石崎文雄、柳佳輝、星野華奈、鳥羽智貴、星井達彦、小原健司、大澤崇宏

進行性腎細胞がんに対する薬物療法は、IO drugsの登場後、一次療法は特に大きく変化し複合免疫療法が主役を担っている。一方で、二次治療以降の逐次療法についてはエビデンスが高い前向き研究は少ない。日本における腎癌診療ガイドラインは2026年中に改訂版が発刊予定であるが、ベルズティファンも免疫療法ならびにTKI使用後の二次治療の選択肢として推奨される。我々の初期経験を共有したい。

《 休憩 15:40~16:10 》

16:10~16:40 日本泌尿器科学会新潟地方会総会